


◆歴史的風致の価値◆

■伝統行事・祭礼にみる歴史的風致(住吉祭りにおける 神輿渡御祭(おわたり))

- ・住吉祭礼図屏風にも描かれる“盛大な祭りの様子と賑わう街道や町並み”
- ・“堺と住吉大社との古くからの繋がり”が持つ伝統の重み
- ・海と共に歩んできた堺の人々の信仰心

- 
- 伝統に対する想いが、地域を越えて繋がっている
 - 人々が訪れ、交わり、賑わってきた古いまちなみや街道などとともに、古き良き時代の香りを今に伝えている

茶の湯にみる歴史的風致

応仁の乱以来、貿易で急成長を遂げた堺の経済力は、京や奈良をもしのぐほどに発展した。この経済力を背景に、堺商人の間では、連歌などさまざまな文芸が花開く。茶の湯についても、武野紹鷗や千利休、山上宗二など多くの茶人を輩出し、茶の湯における作法や道具使いなどにおいて大きな変革が行われた。

武野紹鷗は、茶室を四畳半に相応する草庵茶の湯の規矩をつくりあげた。このころ、茶会の構成や手前の成立がみられ、茶会の様子を克明に記した茶会記が作成されている。津田宗達、宗及親子により記された『天王寺屋会記』には、堺、京、奈良などで行った茶会の様子が記録されている。

また、武野紹鷗に師事し茶の湯を学んだ千利休は、茶室を一畳台目や二畳のような小間に移行し、座敷の飾りを簡素化するなど、外見は質素であっても内面の充実を求める「わび茶」を完成させた。



椿の井戸 (伝千利休屋敷跡)



利休供養塔

茶の湯にみる歴史的風致

近世の茶室は、環濠都市内外において残されており、引き続き人々の間で茶の湯がたしなまれていることが確認できる。江戸時代初め頃の建築であり、国の重要文化財に指定されている山口家住宅では、近世中期から後期に増築された茶室が残されている。

また、毎年2月27日に南宗寺の本堂において、利休をしのぶ法要である「利休忌」が行われる。この利休忌は、明治9年(1876)に千利休とゆかりのある塩穴寺から二畳台目、草庵風の茶室「実相庵」が移されたことを契機として、茶会が行われてきた。

現在、茶の湯の活動は市全域へと広がっている。小学校での茶の湯体験や、秋に行われる堺大茶会など、市内外の多くの人々が茶の湯の文化にふれている。

このように、堺の茶の湯は時代を彩る偉大な先人を排出するとともに、庶民にも親しまれ、もてなしの心を今もなお、伝え続けている。



山口家住宅茶室




利休忌

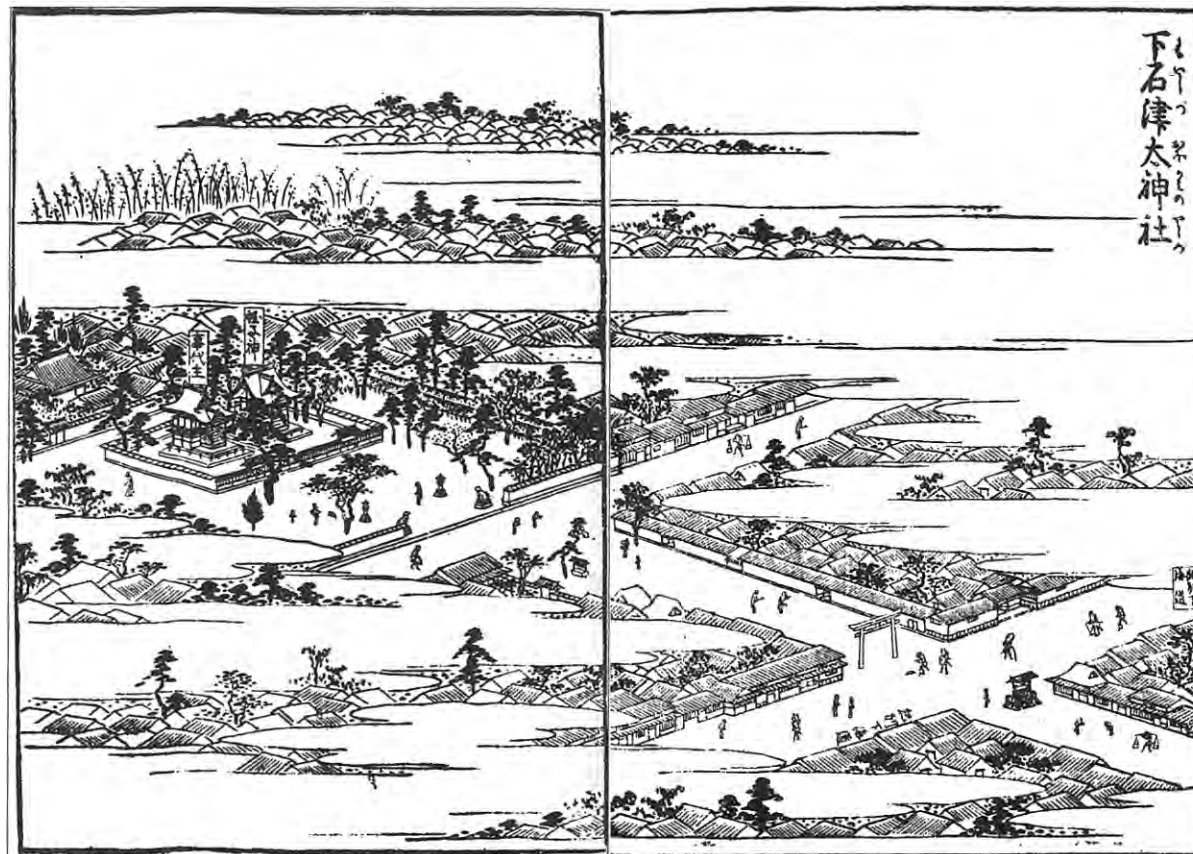
◆歴史的風致の価値◆

■茶の湯にみる歴史的風致

- ・三千家の家元の供養塔が建立され、神聖な地とされる南宗寺
- ・利休ゆかりの品々をはじめとする偉大な先人の足跡
- ・流派にとらわれることなく広がる、“堺の茶の湯”

- 
- 千利休をはじめとする偉大な先人を感じることができる
 - 『おもてなしの心』が“茶の湯”を通して広く伝えられている

集落の歴史的風致



和泉名所図会 寛政8年(1796)

伝統行事・祭礼にみる歴史的風致

■上神谷のこおどり

鉢ヶ峯寺の國神社に伝わる神事舞踊である。

旧暦8月27日の國神社の秋祭りに村の若衆によって奉納されてきたと伝えられている。社会状況の変化や日露戦争の影響などから、明治後期より中断していたが、昭和8年(1933)に上神谷地域の協力のもと本格的に復興し、それ以降、櫻井神社に奉納されるようになった。現在は、毎年10月の第1日曜日に行われている櫻井神社の秋季例大祭で奉納されている。

踊りの中に「鎌倉踊り」や「具足踊り」があり、踊りや衣装に室町時代の風流踊りの特徴が見られることから、中世には既に踊られていたと考えられている。大阪府内でも古い形態を残す民俗芸能として、昭和47年(1972)には、国選択無形民俗文化財となった。さらに平成5年(1993)には大阪府指定無形民俗文化財に指定され、現在は「堺こおどり保存会」を中心に芸能の保存と伝承がおこなわれている。



櫻井神社での試演会 昭和8年(1933)



上神谷のこおどり

伝統行事・祭礼にみる歴史的風致

■ やっさいほっさい

浜寺石津町中4丁の石津太神社は延喜式内社であり、日本最古の戎社と称する。12月14日に日本書紀に記された蛭子命の誕生と漂着の伝説に基づき冬季例大祭として、「やっさいほっさい」が行われる。

漂着した戎神を漁師たちが薪を燃やし暖めたという伝説にちなみ、約2,800本のご神木と呼ばれる薪を境内に円筒形に積み上げ、「トンド」の火焚きを行う。そして、火伏せの後に戎神に扮した山伏役を担いで燃え落ちた赤々とした炭の上の火渡りを3度行い、神社境内の周りを「ヤッサイホッサイ」の掛け声とともに3周する神事である。薪の燃え残りを家に持ち帰ると、厄除けのまじないになるといわれている。

泉州の奇祭とも言われ、炎を背景とした祭り独特の雰囲気には人々は圧倒される。



やっさいほっさい



北本殿・南本殿